

実施報告書

出前福祉講座

(災害対策用携行ミニポーチの活用)

平成 2 5 年 9 月 2 5 日

海老名災害ボランティアネットワーク

平成25年度 出前福祉講座 実施報告書

- 1 日時 平成25年9月25日 午後1時45分～2時30分
- 2 場所 海老名市立東柏ヶ谷小学校 特別活動室
- 3 参加者 1年生の3クラス 89名
- 4 実施内容

参加者全員が講堂に集合し、社会福祉協議会の岩澤さんの挨拶で始めました。

海老名市が市内全小学生に配布している「災害対策用携行ミニポーチ」の活用について、資料に基づき、お話をしました。

このポーチの使い方は、災害発生時に生き残っている場合に、使用するものであり、このポーチを持っていても生き残れる保証はありません。生き残った後の使用するものです、災害は何時起こるのか分かりませんので、常にポーチを持っていてください、と話しました。

次に、ポーチの中に何が入っているかと参加者に尋ねたところ、笛からトイレまで皆答えてくれました。

まず、笛（ホイッスル）から、別に用意したものを
見せて、笛を紙から出して、笛の中の紙（IDカード）
に氏名、生年月日、住所、電話番号等を記入して、も
との笛に入れておくことを説明しました。本来は首に
かけるものですが、元気な1年生では、ふざけたりし
ますので、紐の安全装置が働かないこともあり、危険
な面もあるのでポーチに入れておくように話しまし
た。また、他人には決して見せないように話しまし
た。

次に、水（サバイバルウォーター）について、乱暴
に扱うと水が漏れることを話しました。水の出し方
については後でお話することにしました。

次に、ポケットティッシュについて、これの使用方
法は参加者みなが知っていると話しましたところ、皆、
知っていると答えていました。

次に、絆創膏について、これも使用方は手を切っ
た時に使用すると参加した児童が答えましたので、そ
れ以上お話しませんでした。

次は、栄養補助食品（カロリーメイト）について、
3年保存であり、3年生になったら、食べて、新しい
物を買って入れてくださいと話しました。

次は、簡易トイレについて、簡易トイレの封を開け
るわけにはいかず、バケツをトイレに見立てて、ビニ
ール袋で使用方法を説明しました。

次は、地震対策ガイドブックについて、これは漢字
で書いてあり読めないと考え、6頁以降に振り仮名を
ふったものを用意しましたが、ひらがなも読めないと
のことで、家に帰り、両親に相談して、読み、記入す
ることを説明しました。特に防災メモの記入には、遠
くの親戚の連絡先を書いておくことを頼みました。東
日本大震災のように、家族全員が亡くなり、児童一人
だけ生き残った場合、遠くの親戚に助けてもらえるよ
うにしておくことが大切と説明しました。また、知ら
ない人、他人には、決して、見せてはいけないことを
重ねて話しました。



ここまでで、ポーチの中に入っている物の説明を終わりました。

次に、ポーチの中に入れておいてほしいものを話しました。

バンドナと手ぬぐいを見せて、このようなものを入れておいて欲しいと話しました。災害時のホコリで髪の毛が汚れるのを防ぐのに大切と話しました。

安全ピンの大きな物を見せ、これは何かと話したら、安全ピンと答えたのを受けて、これも、水を出すのに必要であり、ポーチに入れておいて欲しいと話しました。安全ピンで、水の袋に穴を開け、水が出るのを見せ、また、1年生では袋を切り開けるのが難しいと、切ってみせました。安全ピンで開けた穴にテープを貼るとこぼれなくなり、またテープを剥がすと水が出るのを見せました。テープは絆創膏でも良いことを話しました。

次に、氷砂糖、チョコレート、飴を見せて、このような甘い物を入れておくと、災害時に先ず食べて落ち着けると話した。

あと、LEDの小さな明かり、ゴミ袋をみせ、やはり入れておくと良いと話しました。これらは、100円で購入できるので、日頃のお小遣いを少し残して、用意することが出来ると話しました。

ここで、終わりの時間がせまり、シェイクアウト訓練として、頭をカバーして小さくかがみ込むことを、笛の合図で、行いました。皆、小さくなってくれました。

元に戻って、本日の話を終了しました。

社会福祉協議会の岩澤さんが、栄養補助食品について3年生になったら食べることや付け加えるものなどをお話しし終了の挨拶として、出前福祉講座を終了しました。



5 後書き

出前福祉講座は、海老名災害ボランティアネットワークが参加して3年目になります。昨年は、人類700万年の自然災害対策についてのお話しと目黒巻というイメージトレーニングを行いました。今回は、海老名市が全小学生に配布した「災害対策用携行ミニポーチ」の活用について、お話をしました。

参加者は1年生でしたので、中には、向こうを向いたり、笛を吹いたりして、その都度先生から注意を受けていた児童も何人かいて、1年生を相手に教えることは大変だと思いました。

昨年のようにこちらからの一方的なお話ではなく、参加した児童に質問をすると、目を輝かせて発言してくれました。実物を見せたり、水を出して見せたりすれば、しっかり見ており、中には感想を言う児童もいて、一生懸命に話を聞いているよ、との感じを受けました。何かを行うことで参加者の反応が強く出てくることを教えていただきました。

参加した児童は、しっかり前を向き、お話を聞いていたので、今回の講座について、記憶のどこかに留め、ポーチを上手く活用してもらえると信じています。

担当の先生が、これについて、家に帰り両親と話し合いをして記入したりするように参加児童に話していただきました。終了後、わざわざ私の所に来てありがとうと言った児童がいたのは嬉しかったです。

社会福祉協議会の岩澤さんを始め皆さんが資料の作成や学校との事前調整を行っていただき、無事に終了できましたことに厚く感謝申し上げます。

また、松本副代表、台風20号の接近で雨の蒸し暑い中御参加御協力下され、無事に終了できましたことに厚く感謝申し上げます。